

安曇野市図書館協議会・安曇野市交流学習センター運営委員会 会議概要

1	協議会名	平成28年度第2回安曇野市図書館協議会及び交流学習センター運営委員会合同会議
2	日 時	平成28年7月22日 午前10時30分から正午まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 共用会議室305
4	出席者	三沢会長、田村副会長、勝家委員、関委員、銭坂委員、山田委員、川名委員、福澤委員、樋口委員、山本副委員長、古畑委員、小平委員、加々美委員、清水委員、鈴木委員、曽根原委員
5	市側出席者	橋渡教育長、山田教育部長、高嶋課長兼中央図書館長兼穂高交流学習センター所長、青柳豊科図書館長兼豊科交流学習センター所長、山越三郷図書館長、百瀬堀金図書館長、小笠原明科図書館長、細田課長補佐、財津係長、沖副主幹、奈良澤副主幹、青木主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	2人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成28年8月18日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1. 開 会 (山田部長)
2. あいさつ (橋渡教育長)
3. 協議・説明
 - (1) 議長の選出について
 - (2) 図書館及び交流学習センターの管理運営の方向性について
 - (3) その他

○協議概要

- (1) 議長の選出について
事務局の提案により、図書館協議会の三沢会長が議長に選出される。
- (2) 図書館及び交流学習センターの管理運営の方向性について
財津係長より説明。

会長・資料2、資料3を提出いただいた委員から補足があればお願いしたい。

委員・資料2は、私が提出した。前回の中野区、千代田区の視察により、直営でいくべきという私の判断が揺らいできた。視察先の指定管理者は、株式会社でDMや広告代理業で健全経営をしてきた優良企業だ。自力でノウハウを開発し、実績を伸ばした結果、未経験であった図書館事業が会社の最大の事業になっている。営利を追求する株式会社が、図書館運営に対して使命感と情熱を持ち、利幅が薄い事業をよくやっていると。人材育成といった、ソフト事業も熱心に取り組み、他とは印象が違った。運営実態についてだが、サービス内容は、制約がない民間企業が運営を行うと、開館日や開館時間にも柔軟性が出てくる。アイデア開発といったノウハウも持っており、貸出数も増えていた。人材確保については、司書等の有資格者の採用に困難はなく、定着率は90%以上、労働条件は直営時を下回らないように配慮し、雇用期限も柔軟性があった。特例もあり、有期契約雇用者から責任者も出ているということだった。経費については、区から説明がなかったが、更新して指定されているという面でメリットは出ていると感じる。これを安曇野市で導入するとなると、クリアすべき条件もある。視察先の図書館は、3つの会社がコンソーシアムを組んで運営している。こうした事業主体が見つければ、同じ効果が期待できる。しかし、視察先の指定管理者は、都内や政令指定都市といった規模での実績はあるが、安曇野市の規模での実績はなく、職員採用、コストの面でも問題がある。また、市内には図書館が5館あるが、全館で導入しない場合、指定管理と直営が混在することになる。さらに、現在働いている職員のうち希望者は継続雇用し、処遇は落とさない保証が必要だ。

委員・資料3は、昨年視察した塩尻市立図書館に関する本が新聞で紹介されていたため、

配布をお願いした。安曇野市は指定法人ではなく、直営で最大の可能性を生み尽くすべきだ。確かに視察先の指定管理者が有能な人材で構成され、努力している。しかし、指定法人化に移行する根拠を示してほしい。具体的に利用者の要望を検討し、民間の力を借りる必要があると示していただければ検討材料になるが、市の基本計画で決まっているということでは、説得力がない。また、初めから決まっていることであれば議論する意味がなく、ここで話し合った結果を市が受け入れる姿勢があるのかという点がまず問われる。資料4の文化振興に関するアンケートの結果には、過半数が指定法人化を望んでいるとある。しかしこれは、導入を誘導するような設問を設定しており、根拠にはならない。直営の塩尻市立図書館は評価が高いが、それは図書館の基本構想が明確であり、図書館長が適任者であったから実現したと思う。この館長は公募で館長に就任し、自分のアイデアやイニシアチブを発揮している。特にユニークなのは、出版文化の育成発展のために専門知識や人脈のある人の協力を得て、連続した講演会を行っていることだ。また、催し等を新聞で宣伝するやり方もうまい。このような方法で図書館を活性化させることはでき、市はやることもあると思う。学校連携やレファレンスの強化は直営でもやれる。このようなことをやり尽くした上で民営化や指定法人化ということになれば、まだわかるが、やるべきことがもっとあると思う。

委員・図書館を運営するのは、人間であり、指導力や運営能力を持った人がやれば指定管理でも直営でもどちらでもよい。視察した千代田区図書館も、3年ずつの選定や選書に行政は関わらない、他の機関と連携するといったわくわくする感動があった。導入するのであれば、そういうことができる指定管理者がよい。

委員・塩尻市立図書館を見て、司書として働いてみたいと思ったと同時に、市民としてこういう図書館があれば移住したいと思う人がいることも理解できた。そうなると、安曇野市はいろいろなことにチャレンジしなくてはならないが、市の図書館に対する熱意がわからない。すばらしい図書館をつくるため、直営か指定管理かを考えているのであれば、議論を重ねていけるが、同じことを続けるのであれば、指定管理を選んだ方が市民のためかもしれない。市には、図書館のあり方という原点を聞きたい。

委員・市からアウトソーシングの考え方が出されたが、図書館のあり方というものがある。それについては、図書館のパフォーマンスや評価という部分を含めて判断すればよいと思う。

委員・通常この会議は、2時間だが今日は1時間半だ。あと何回議論するのか。

事務局・3月末の会議でスケジュール案を出した際、今日を含めた残り3回で11月をめどに報告書を提出する計画で承認をいただいている。

委員・安曇野市の図書館に何が不足しているかという発想ではなく、未来像や可能性を考えるべきだ。図書館が単一にあるのではなく、まちづくりの一角としての図書館、または生涯学習の中核に立った人の図書館、市民が幸せになるための図書館として、図書館は何ができるのかという未来像や可能性を見た時、指定管理者制度はどちらかというといかなものかと思っていた。しかし、考えよう、使いようによっては、市が変わるきっかけになる。視察先をそのまま導入することは危険だが、視察先では、あるものの中からはないものを生み出し、ないものの中からはあるものを生み出していくという、2つの図書館の姿を見せてもらった。そこに指定管理者が加わり、マッチしたと思う。指定管理を導入するかしないかという視点も大事だが、これからどういう市にするか、そのためにどうするかという視点で図書館づくりをしていただきたい。

委員・資料4の文化振興に関するアンケートの目的は何か。そして、結果をどのように生かし、市民に発信するのか。市の文化振興計画をご存知ですかという設問で「計画があることを知らない」が79.4%という結果だが、この方々が47ページの「文化施設運営への民間事業者の導入について」の設問をみて、妥当性があるのか。関心がない人に利用者満足度が向上しているという良い面のみをみせているので、これを外に出すと大変なことになると思う。

委員・関連して、アンケート結果の32ページに文化芸術環境についての満足度を聞く設問

があるが、ホールやギャラリーの充実に関する設問はいずれも満足度が低い結果である。大きなホールがないために、文化振興活動が少ないように思う。他の地域と比べても、場所がないためにメジャーなものはほとんど来ていない。大きいホールの建設を検討していただきたい。

委員・資料5は、図書館司書に実施したアンケートの結果だが、どのような設問を設けたのか。また司書には、アウトソーシングに関する情報をどれくらい話してアンケートを実施したのか。

事務局・文化振興計画は、平成23年に作成し、ダイジェスト版の全戸配布や広報、ホームページ等で周知を図っているが、アンケートでは、約8割の方が内容を把握していない結果となった。このアンケートは、見直しを行う際の進捗状況として実施し、前回の見直し時に行ったアンケートと同じ設問もあり、比較ができる。交流学习センター部分については、新たに加えた設問となる。設問の仕方だが、誘導的のご意見あったが、一般的な指定管理の方向性を示し、導入施設の事例を加えたものである。また、文化振興に係る舞台芸術については、大ホールと位置付けられている豊科公民館ホールがリニューアルオープンしたが、改修の間は使うことができなかった。“みらい”は貸館が多く、プロ演奏の鑑賞の場としての活動はあまり多く実施していない。このアンケートもホールイベントについて、市民の皆様がどう思っているのかを参考にし、豊科公民館ホールの活用方法、各ホールとのすみわけを考える上で重要だ。ご意見を参考に、舞台芸術の振興についても考えたい。また、司書に実施したアンケートの様式は、指定管理について若干の説明をつけ、設問は設けずに、自由記述する方法をとり、非常勤の図書館司書34名中30名が回答した。資料5には、書かれた意見をそのまま載せている。

委員・司書のアンケート結果にも雇用年限の不安、年限をなくすことができないかという意見がある。私は、直営を支持しているが、これは指定管理を否定するものではない。ただ、直営で運営していけるのであれば、この部分は重要だ。年限が決められている職場ではモチベーションが上がらない。塩尻市の場合は、この期限を内規で外し、指定管理を導入しないと明確にしている。期限を設けることで、多くの人に雇用の機会を与えることは理解できるが、実情は期限を終えた司書は近隣の地域を回って勤務している。なぜ安曇野市でできないのか疑問だ。期限を外すことはできないのか。

委員・安曇野市は、司書の97%が非正規職員であるが、個人貸出数は県内で2番目である。こういう勤務条件の中で、非正規職員が情熱をもって働いていると感じる。その点を考えたときに、やはり継続した専門的な人材の確保が必要だと思う。図書館をより充実し、県内でも本を借りて読むことが生涯学習だという点から考える時には、大事にしていきたい。

委員・アウトソーシングを推進する観点に、職員の雇用確保があると思うが、直営であっても、その点は変えられると思う。民間になったからといって、雇用が安定するとは思えないので、アウトソーシングを推進する観点からは、外していただきたい。

委員・資料6は、11月に提出予定の報告書案だが、課題提起の部分で「事業の効率化、適切な職員の定数管理によって行政組織のスリム化を図ることが不可欠」、「アウトソーシングを積極的かつ計画的に推進して業務の効率化を図っていく必要がある」といった、指定管理を導入する理由がはっきり書いてある。「安曇野市におけるアウトソーシングの考え方」は、10年ほど前に策定され、修正を加えたものだが、基本的な考え方として、行政組織のスリム化を推進するために、民間でできることは民間に委ねるといった基本方針が明記されている。次に、経費の縮減、事務処理の効率化だけでなく、行政サービス向上の観点からアウトソーシングを推進すると書かれているが、これは、経費の削減と事務処理の効率化を追求し、付録として行政サービスの向上を考えるということになる。交流学习センターは、人的な交流や文化を創出する場となるため、書き方の順序が逆ではないか。

委員・資料6の21ページに「原動力となる専門性の高い職員の安定的な確保と配置が難しい」とあるが、塩尻市のように、市民の活力を埋め込む仕組みを加え、検討していただきたい。私は、としょかんサポーターの経験もあるが、マネジメントの部分は距離があったため、検討していただきたい。

- 事務局・資料6の現状認識の部分は、これまでの会議で出た意見をまとめたものである。そのため、確認しておきたいことがあれば、加えるべきだと思う。また21ページの総括の部分は、共通認識が図れていないのであれば、字句や内容の修正は必要だと思う。今後のスケジュールもあるため、ここまでの部分で足りないところを出していただき、まとめた上で、次にあるべき姿や方向性の提言の協議を行いたい。今ご意見いただいた、雇用年限や市民との協働というような視点は、あるべき姿や方向性の部分で検討していただきたい。
- 委員・部分的な字句修正で済む問題かということがまずある。基本的な考え方の問題、図書館のあるべき姿についての合意が必要だ。具体的に図書館や交流学習センターの運営について、市民からどういう要望が出ているのか。それに対し、市はどのように取り組んできたのかその資料を出していただきたい。納得できる根拠を示していただきたい。
- 委員・資料4の文化振興に関するアンケートの結果の32ページに文化芸術環境についての満足度を問う設問があるが、利用者が期待することや課題等は、今までの事業報告の中に入っているのか。
- 事務局・図書館協議会、交流学習センター運営委員会で年次の計画と報告は説明し、承認をいただいている。利用者がどう思っているかについては、次回にイベントのアンケート結果や図書館利用者の時間帯別の利用データ等を示したい。
- 委員・資料6の報告書案は、表紙にある通り、図書館と交流学習センターの方向性の報告書だと思う。市全体でのアウトソーシングの基本的な考え方が記載されているが、図書館と交流学習センターはそれらと同じ位置づけにできるのか、考え合わせていただきたい。アウトソーシングの中での図書館の位置づけがこれだけ見ると足りず、優先順位が本末転倒になっている。
- 会長・現状認識については、共通理解となるよう、次回の会議で必要な資料があれば事務局に提案していただきたい。次回の冒頭でまとめに入りたい。

以上